

花火に祈りをこめて

佐伯 仁

●花火よ、高く高く…

8月。宵闇に瞬く蛍を讃えたのは清少納言、現代で歓声が沸くのは花火。去る6月1日午後8時、全国約2百か所で一斉に160超の業者が花火を打ち上げた。コロナに負けぬよう花火で元氣と希望を届けたいー若手職人の企画だ。

花火と言えば誰もが口にするのが「玉屋あー、鍵屋あー」だろう。

鍵屋は江戸・両国花火の元祖。江戸幕府の「御用達」を務め、

1659年（元治元年）両国橋（隅田川下流に架かる橋）

武蔵・下総を結ぶ）の竣工に際し花火を打ち上げている。その後、

1732年（享保17年）江戸にコレラが大流行し、数万人の

死者が出たため、8代将軍徳川吉宗公は犠牲者の慰霊と

悪疫退散を祈り隅田川沿いで水神祭を実施したところ、

屋台や花火の見物客で賑わった。

一方、埼玉・秩父の^{むく}棕神社では、10月の祭礼で市民の手作り

ロケット「^{りゅうせい}龍勢」（重要無形民俗文化財）を打ち上げて奉納する。

27地区で技を競う力作揃い（今年は中止）。ロケットの轟音は

神へのメッセージ、感謝の心を神に届けたいーだから神により

近くの天空でより響く音で、より高く打ち上げる。

木の末に遠く花火の開きけり 子規